



# HIROSHIMA G7 YOUTH SUMMIT



## 広島G7ユースサミットからのユース声明

### はじめに

G7広島サミットに参加する首脳および政府代表の皆さん

私たちは、世界中から集まった若者の代表団そして変革をつくり出す者たちとして、核兵器がもたらす破滅的な結末を象徴するここ広島に集まったことを光栄に感じています。私たちは、世界各地から集まった専門家や平和を訴える人々とともに、気候変動や核兵器など、この世界における私たちの生存に関わる脅威について議論しました。私たちは、G7諸国と市民社会がこの重要なサミットを開催することを称賛し、核兵器廃絶のための即時的行動が必要であることを訴えます。

私たちは、これから世界のリーダーになっていく者たちとして、核兵器が人類と環境にもたらした押しつけている危険を根絶し是正させる責任があります。私たちは団結して、核兵器とその破滅的な結末から解放された安全な世界を達成することを決意しています。

ここ広島で、私たちは世界に向けて、核兵器の生存者である被爆者たちに耳を傾け、核軍縮の道徳的必要性について認識するよう呼びかけます。被爆者や、核兵器による被害を受けた他の人々が体験してきたことをしっかりと受け止め、大量破壊兵器のない安全な世界を今後何世代にもわたって保証するために、核兵器に関する緊急の行動をとるよう求めます。

核兵器の保有と使用は、核兵器禁止条約によって定められた通り、許されないものです。私たちの将来の安全保障は、国家間の不信や、人道上や環境上の破滅的な結末をもたらそうとの威嚇に依拠したものであってはなりません。

今日私たちが直面している紛争や危機を考慮すれば、今こそ、核兵器をなくすための行動をとらなければなりません。私たちは、若者として、核兵器禁止条約こそが核兵器を廃絶するためのもっとも効果的な道筋であると考え、この条約を支持します。

### 若者の声と懸念

世界のヒバクシャの証言を直接聴くことができる最後の世代として、その証言を活動の中に組み込み、さらに若い世代に伝えていくことは、私たちの使命であり責任です。

生存者、その家族、そして先住民族の人々は、核兵器の使用、実験、製造、廃棄によって



# HIROSHIMA G7 YOUTH SUMMIT



偏った被害を受け続けています。そして、深く傷つけられる体験に苦しみ、土地を奪われ打ちのめされ、重篤な健康上の問題を抱えています。こうした人々や私自身のためにも、完全な軍縮と核兵器の廃絶を追求することは私たちの責務です。

私たちは、今年130万トンの放射性廃棄物が放出されることを懸念しており、この危機の前線に立たされている国々と連帯しその国々を支持し、これが太平洋における国境を越えた被害をもたらす問題であることを認識しています。

## G7諸国に対する要請

核兵器のない世界のために活動する若者として、私たちは、以下の行動をとるようG7諸国に要請します。

1. 世界のヒバクシャの話に耳を傾け、彼らを支援すること。被爆者の証言を聞き、広島平和記念資料館を訪れ、核軍縮に向けた措置をとることを真摯に誓約すること。
2. 核兵器禁止条約を前に進めるための具体的な措置をとること。たとえば、地域機関・国際機関において同条約を促進すること、第2回締約国会議にオブザーバー参加すること、同条約締約国とその履行について協力すること。
3. 核兵器によって被害を受けた地域における調査や研究を即時に進めること。それによって関係諸国、諸機関また個人が、国際機関や市民社会また被害地域と協力して、被害者援助と環境修復に関与できるようにすること。
4. 1968年の核不拡散条約（NPT）第6条によって定められた核軍縮の法的義務を履行すること。そして、各国政府において、NPTと核兵器禁止条約の相互補完性についての議論を開始すること。
5. 核兵器禁止条約が定める核軍縮の不可逆性と検証過程が正当であり好機であることを認めること。
6. 核兵器禁止条約の第6・7条が定める国際協力促進の原則を支持し、核兵器が過去そして現在もたらしている危害に対する被害者への援助と環境の修復を行うこと。
7. 核政策に関する意思決定過程や国家また地域レベルでの平和と軍縮の取り組みにおいて、人種、ジェンダー、経済的立場、地理的境界によって疎外された人々が関与



# HIROSHIMA G7 YOUTH SUMMIT



しその声が真に代表されることを保証すること。そして、先住民族や核の被害を受けてきた人々を包摂し、それらの人々に権限を与えること。

8. 核兵器をはじめとする大量破壊兵器への支出を制限し、その代わりに、気候変動の影響緩和や、教育の保障、また平和構築の取り組みに対する持続的な投資に資金を振り向けること。
9. 諸国に対して過去または現在の核廃棄物の処分に関する責任を取るよう呼びかけること。そして、核廃棄物の処分が、周辺の地域や諸国に危害をもたらさないことを確保すること。
10. 平和・軍縮教育の重要性を認識すること。そして、若者、女性、核の被害を受けた人々が核軍縮過程に関与するよう、教育およびその地位向上のための資金を保証すること。
11. 建設的な対話を通じて、非道徳的な核兵器保有や核兵器に価値を置いた安全保障パラダイムから脱し、核兵器の使用や威嚇を非難し、持続可能な未来に向けて、誤った核抑止論ではなく核軍縮の原則と核不使用の規範に基づいた新たな政策を策定すること。

## おわりに

G7の首脳および政府代表の皆さん、私たちは将来のリーダーとして、核兵器の完全廃絶を固く誓約しています。私たちは、G7諸国によってこれまでなされてきた安全保障と人類のための共通の目標に向けた取り組みを認識しています。しかし、私たちは皆さんに、ここに挙げた私たちの勧告をしっかりと受け止め、より大胆で断固たる行動をとるよう強く求めるものです。

私たちの世代には、私たちが受け継ぐ未来を選ぶ権利があります。私たちは、より公正かつ公平で持続可能な世界をつくることを揺るぎなく決意しています。それは、核兵器の暗い影から解放された世界に他なりません。私たちは皆さんに、私たちの使命に加わり、私たちの声を心に留め、人類全体と地球の将来を守るためにともに取り組むことを、これまで以上に強く呼びかけます。